

企業訪問 資源循環レポート

株式会社近藤



(株) 近藤
ホームページサイト

次世代医療の廃棄物処理が 災害時の透析医療現場を支える さらに廃棄段ボールを資源循環 CO₂削減にも貢献



話をされる（左から）布施社長と奥田常務

今号では、(株)近藤(名古屋支部)のダイアライザーシーラー[®]等について取材をさせていただきました。

同社は令和2年10月20日発行の「循環あいち」117号の資源循環レポート(協会HP→循環あいち→企業訪問・資源循環レポート内に掲載)にご登場されています。以降、5年経過した現在、災害時のニーズに応える等の医療現場での最新状況について、代表取締役社長 布施一明氏、代表取締役常務 奥田敦芳氏のお二人からお話を伺いました。

■会社概要

平成元年(有)近藤を設立し、同年より産業廃棄物収集運搬業許可取得(愛知県、岐阜市、名古屋市、岐阜県、豊田市、豊橋市、他)、平成5年より特別管理産業廃棄物収集運搬業許可取得(岐阜県、愛知県、岐阜市、三重県、豊田市、他)、平成11年(株)近藤に組織変更し、平成17年にISO14001を取得しました。

現在、長野県、岐阜県、愛知県、三重県から産業廃棄物収集運搬業、及び特別管理産業廃棄物収集運搬業の優良認定を受けています。

同社は「安全」「确实」「適正」をコンセプトに、医療廃棄物を専門とした収集・運搬業を展開しています。介護福祉用品の販売等も含め、東海エリアを中心に3,000以上の施設と契約をしています。



(株)近藤

■代表者/代表取締役社長 布施 一明

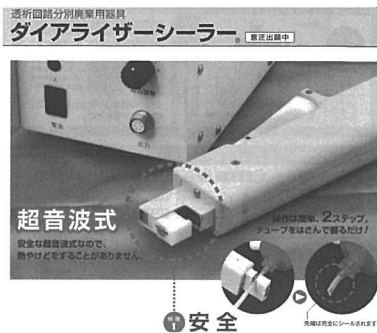
■所在地/本 社 名古屋市 中村区 森末町二丁目49番地の1

営業所 あま市中萱津道場6番地

TEL 052-441-3345 FAX 052-441-7855

■ダイライザーシーラー®の強み

透析回路分別廃棄用器具であるダイライザーシーラー®は、国内の透析医療機関において使用された注射針や回路を超音波式で切り離す器具です。



安全性においては、透析回路内に生理食塩水や血液等が残存したままの状態でもシール密着し切断します。超音波を利用しているため切断時に熱や臭い等は発生しません。

★医療現場でダイライザーシーラー®を使用した動画サイト

<https://youtu.be/GDft4R-UE3s>

■コストダウン

透析時のダイライザーや回路は、ダイライザーシーラー®によりシーリングされ、切り離されます。そのため回収容器内では密になって格納されます。これまでは透析回路をシーリングせずにつながったまま格納していたため、ダイライザーや回路がかさばり、多く格納できませんでした。

ダイライザーシーラー®を使用することにより、医療廃棄物の処分費をコストダウンすることができますので、ご相談くださいとのことです。

■CO₂削減へ

・医療用廃棄物プラスチック専用容器 (PP・PE樹脂)
→ 処分する場合、CO₂を排出

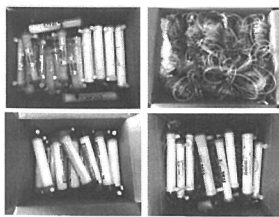
・ダイライザーシーラー®納品段ボール箱使用
→ CO₂排出はゼロです。

ダイライザーシーラー®の納品段ボール箱は

(㈱近藤では、ダイライザーや透析血液回路が納品された段ボール箱を利用した廃棄方法をご提案致します。



元々廃棄していた段ボールを再利用します。(バイオハザードマークと持ち手をご用意致します。)



ダイライザーとチューブは一緒に収納することもできます。(従来のプラスチック容器よりも、たくさん詰め込めます。)

元々廃棄していました。この段ボールを再利用して循環することを具現化し、バイオハザードマークとして持ち手を表示しました。

結果として、コスト面では納品段ボール箱の方が多く格納することができ、さらにCO₂削減にもつながるという効果が得られました。

■あんしん針キャッチャー®

注射針分別廃棄用補助器具として開発され、専用

ホルダーにセットし、抜針後の針先をあんしん針キャッチャー®に差し込むだけです。

患者様と医療従事者の方の素早く安全な処置のために考案された専用ツールです。



■災害時の医療廃棄物の安全性を確保

昨今、地震や豪雨による災害が頻発しています。災害時においても、透析医療施設では安全で衛生的な環境で治療が受けられ、医療廃棄物を適正処理をしないといけない。このような災害時に医療備品が不足となりがちですが、ダイライザーシーラー®を活用した医療廃棄物のリサイクルシステムはコスト面と環境配慮型であることから注目され、全国から問い合わせがあり、災害時への備えとしてもシェアが広がっています。

■環境への取組

医療廃棄物の回収における段ボールのリサイクルにより、CO₂の排出削減に貢献していますが、同社ではSDGsへの取組が掲げられています。

安全・確実・適正 (ゴール3・8・11・12) では優良産廃処理業者認定の継続更新等を継続、やりがいのある職場 (ゴール3・4・5・10) では女性の管理職への積極登用等を推進、環境 (ゴール3・7・11・13) ではISO14001更新による環境マネジメント等を実践、地域貢献 (ゴール9・12・14・17) では藤前干潟の清掃活動、日本赤十字社への継続的な寄付等を行っています。

お忙しい中、取材にご協力いただきありがとうございました。